

はまなす句会（七月二十五日）（百三十五回）

青空へ淡き雲刷き合歓の花

圭二

高波の後に一本合歓の花

菊枝

藪の中ひそと咲きおり合歓の花

久子

亡父の郷そぼ降る雨や合歓の花

玲子

合歓咲けり林の中の静けさに

則子

